

「23 携帯電話を賢く使おう」

1. 指導対象

小学校高学年 中学校1, 2年

2. 指導意図

この授業では、「携帯電話の賢い使い方」について考えていく。

「携帯電話」の普及はめざましく、クラスのかなりの生徒が所持しているであろう。しかし、そのマナーや誤った使い方による危険性についてはあまり知らされていない。そこで、この授業では携帯電話の使い方のマナーについて全般的にふれながら、特にいわゆる「ワン切り」と呼ばれる現象について考えていく。

3. 指導方法

この学習ユニットを教室のプロジェクターに投影しながら、生徒に問いかけ、生徒の応えを引き出しながら授業を進めていく。

4. 代表的な授業展開例（一斉授業の例）

（1）導入 テーマの紹介

今日のテーマは「携帯電話」。

携帯電話がどのくらい普及しているかを示す表やグラフを示す。

児童、生徒の中に自分が自由に使える「携帯電話」を持っている人がどのくらいいるか、手を挙げてもらう。

（2）展開 学習ユニットの使用

プロジェクターでこの学習ユニットを投影する。

その画面を見ながら児童、生徒に問いかける。生徒の応答を黒板に記録する。

ここでは対話風に先生と生徒の会話

a. ユウジ君は入学祝いで「携帯」をお父さんからプレゼントしてもらったけれど、みんなが「携帯」を持つに至ったきっかけは何か？ 差しつかえなかったら、教えて。

お父さんはユウジ君に使うときの注意をしているけれど、ユウジ君はあまり聞いていないね。でもここが大切なんだ。ここで、みんなに聞いてみよう。

携帯電話の電源を切っておかなくてはいけない場合はどういふときかな？

音楽会や映画や芝居を見ているとき
電車やバスなど騒いではいけないところ
病院や航空機の中

つまり電話の呼び出し音や話し声が周りの人の迷惑になるときだよな。
他にどういふとき、ところ、場合が考えられるかな？

授業中（笑い）

そうだ。授業中に呼び出し音があったり、携帯で話したり、メールをしていたりしたら、その携帯電話は「没収」サレルノだ。ここは、厳しくいっとかなくては。

病院
飛行機の中

そう、携帯電話が発する電磁波は、心臓のペースメーカーに異常を生じさせることがあるし、飛行機のメーターを狂わせてしまうこともある。これは大変な結果を招くよな。

電話の話に熱中すると危険な目に遭う場合もある。どんなときかな？

車の運転中は事故を起こすから、運転手が「携帯電話」をしているととても怖いよな。
運転中は絶対禁止。自転車もそうだし、歩きながらもどうかな～。

自分に携帯電話がかかってきた時や、自分が誰かに携帯電話で発信しなければならない時に注意しなければならないことって何かな？

自分やだれかが「携帯」で呼び出されたり、話をしているのを見て「いやあな感じ」を持つことがないかな？ 自分に携帯がかかってきたら困るときってあるでしょう。

たとえば、自分がだれかと話をしているときに、携帯がかかってきて、話が中断してしまうときとか、やはり不快だよな。「携帯」に限らず、電話は相手がどういふ状態かをかまわずにかかってくるから、かけるときにはいつも、初めに「今、話してもいい？」と確かめるのが大事なマナーだよな。自分の都合だけで決められないのだから、いつも相手の立場や気持ちを大切にしなければいけないね。

b . 「携帯電話」についての基本的なマナーについてはわかったかな？ では次に進めてみよう。

「携帯電話」については次のようなこともあるんだ。

このようにかかってきた電話にでられなかった電話のことを「不在着信」といって応答しなくても携帯には着信した記録が残るようになっている。だから、すぐにその電話に「折り返し電話」をかけることが簡単にできるわけだ。

ユウジ君はその番号が見覚えのないものだったにも関わらず、つまり誰からの電話だったのかもわからずに電話をしておしまおうとしている。

さて、ここでちょっと考えてみよう。いったい何のためにこの見ず知らずの人はユウジ君の携帯に「不在着信」の記録を残したのだろうか？

ユウジ君からの「折り返し電話」を待っている。

ユウジ君が電話をかけてきたら、何かうまくいってものを売りつけようとしている。

そうだね。ユウジ君が「折り返し電話」をかけることを期待して「不在着信」を残した。電話に出なければ通話料もかからないというところもその「見ず知らず」の人には有利な点だ。

では、さらに考えてみよう。ユウジ君がその「見ず知らず」の電話に「折り返し電話」をかけることによっていったいどういうことが起こるのだろうか？

悪徳商法の手口に引っかかって大損をしてしまう。

あぶないところやあやしいところなどを紹介されて、ひきずりこまれてしまう。

c . 次をみてみよう。

ユウジ君が「折り返し電話」をしたら出てきた相手はいきなり「ラッキーナンバーです」とかいている。こういわれたら誰もが何かプレゼントでもくれるのかなと思ってその中身に興味を持ってしまおうだろうね。

それにつられて、いわなくてもいいことについて答えてしまう。よくありがちなことだ。ユウジ君には朝の時間がないときだったので、あまり深く考えなかったという事情もあった。

でもここに落とし穴があった。それがどんな落とし穴であるかは、だいたい予測がつくかもしれない。わかるかな？

かけてきたみんなに言っているはずだ。冷静に考えればわかるはずなのに。

うまい話には気を付けるというのは鉄則だよ。

d. 「へんだな？」と思わなければならなかったときはまだあった。確認の電話が入ったときである。ここでも彼はこの確認を携帯電話会社からのものと思いこんで返事をしてしまった。ここでははっきりと拒否をしていたら、次のようなことにならなかったであろう。

e. お父さんから請求書を見せられて、「情報サービス料」として請求されたものがユウジ君には「身に覚えのない」ものであったかもしれない。そういうつもりではまったくなかったからである。

(3) まとめ

さて、振り返って考えてみよう。こういう結末にならないためにユウジ君はどういうことに気をつけなければならなかったのか？ どこに問題があったのか？

まず第一に、「不在着信」があったからといって、それに「折り返し電話」をする必要がないということだ。特に身に覚えのない電話番号には返事をしてはならない。もしも相手がどうしても返事を必要とする場合には「留守番電話機能」や「伝言機能」や「メール」を使ってメッセージをいれておくか、あるいは改めて電話をかけ直すのがマナーである。

次に、もし電話をしてしまった場合にも、相手に心当たりがないときや、不審に思ったときはすぐに電話を切るべきであったということである。まして、答える必要もない氏名、住所、身分などのプライバシーに関わる個人情報は知らせるべきではない。

さらに確認の電話があったときにも、「契約をした覚えはない」「身に覚えのないことだ」ときっぱりと否定するべきであった。

そしてもしもこのようなトラブルに巻き込まれたときには、どこに相談を持ちかけたらいいのかも知っておくべきことであろう。

まず携帯電話会社の相談窓口連絡する。各地にある消費者相談センターや国民生活センターの相談窓口でも相談に乗ってくれる。

このような「不在着信」機能を使って「折り返し電話」を期待することは「ワン切り」と呼ばれている。一般的にはこの「ワン切り」は相手の携帯電話にこちらの携帯電話の番号を登録するときによく使われる機能であるが、この例のように「折り返し電話」をかけさせることによって客を引き込む電話セールスの方法として用いられるようになって、問題化した。

一時は「ワン切り」に应答するだけで不当な請求が来るといふ風説が流布したが、そういう事例はまったくないと否定されている。しかし、このケースのように、巧みにごまかされて買われたり、契約書が送られてきたり、あるいは個人情報を根ほり葉ほり聞かれたりするケースはあり得るので、注意をする必要があるだろう。

携帯電話は新しい通信手段であり、便利な機能もたくさんある。これらの機能を使って、これからも新しい問題が生じてくるであろう。このような問題にどう対処したらいいのか、ひとりひとりが自分の頭で考えていかなくてはならないであろう。このような判断能力が問われるのが情報化社会なのである。

(4) 最後に 携帯電話を紛失したとき

最後につけ加えておかねばならない大事なことが一つある。それは「携帯電話」を紛失したときのことである。

あなたは携帯電話をなくしてしまったときにはどうするであろうか？

まず第一にすることは、なくしてしまったことをすぐに携帯電話会社に連絡して、使用を差し止めることであろう。拾った人が勝手に電話をして、その通話料を負担させられたのではたまらないからである。ここまでは誰もが思いつく。

問題はそれだけでは解決できないことが起こる恐れがあるということだ。携帯電話には自分の個人情報とともに他人の個人情報についても記録されている。いわば個人が使っている手帳のようなものである。これが流出してしまうと取り返しがつかない。そこに記載されているあなたの友人が、そのことによって被害を被る結果となりかねない。被害者となることが、あなたの友人たちをさらに被害者にしてしまうことになる。携帯電話の便利さの裏側にはこのような危険もあるのだ。

それを防ぐには、まんいち、紛失したり盗難に遭っても、個人情報を他人が読み出すことができないようにロックをかけるとかシークレット・モードにするとかして、常に注意をするしかないのである。携帯電話を賢く使うということは、こういう事態にも備えて使用するということを銘記しなければならない。

5. テーマの発展

(1) 携帯電話から携帯情報端末へ

今後「携帯電話機」にはさらに機能が付加されて「携帯情報端末」となっていくことが予測される。それを生徒たちが大胆に予測し、それに伴うメリットと問題点について話し合ってみるのもよいだろう。

現在でも「携帯電話」に付加されている機能にはどのようなものがあるのか？

それを利用することによって何ができるようになるのか？

また問題点は何か？

デジカメの機能と写真転送機能

MP3のプレイヤー

GPS（現在位置確認システム）

近い将来、携帯電話に付加される可能性のある機能にはどのようなことがあげられるか？

それによって何ができるようになるのか？
また問題点は何か？

(2) 携帯電話コミュニケーションの特徴

なぜ若者に携帯電話が人気あるのか？ それは人と人とのコミュニケーションのあり方や、人間関係をどのように変えていくのか？ どういうメリットが生まれ、またどういう問題点が生じてくるだろうか？ について、調べたり話し合ったりする。

「ワン切り」問題などよりもずっと大事な問題であると思う。

(3) 携帯電話と親指族

携帯電話は日本文化と適合するといわれている。特に日本語の文字入力システムとしてこの親指入力が注目されている。このことについて調べてみて、日本語のあり方との関連で話し合ってみるとよいだろう。

6. 関連サイトの紹介

(1) 携帯のマナーについて

(社)電気通信事業者協会(TCA)

<http://www.tca.or.jp>

(社)電波産業会(ARIB)

<http://www.arib.or.jp>

(2) いわゆる「ワン切り」問題について

インターネット裏事件簿

<http://www.zakzak.co.jp/we/jikenbo/kiji010.html>

ねちずん村 子どものインターネット利用を考える会

<http://aoba.sakura.ne.jp/~itlitera/index.htm>

国民生活センター

<http://www.kokusen.go.jp/soudan/now/keitai.html>

(3) トラブルが起きたとき

経済産業省消費者相談室

<http://www.meti.go.jp/intro/consult/index.html>

各地の消費生活センター

<http://www.kokusen.go.jp/soudan/map/>

警視庁ハイテク犯罪対策総合センター

<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/haiteku/haiteku1.htm>